

2024年1月21日（顕現後第3主日、B年）

牧師メッセージ

「手放す」

（マルコによる福音書1：14-20）

司祭ヨセフ太田信三

弟子の召命は四福音書すべてに記されています。福音書ごとに内容が異なるのは、それぞれの福音書の記述が著者自身の主イエスとの出会いの真実の「証」に他ならないからです。なかでも、マルコによる福音書の記述は最もシンプルです。主イエスが自ら出かけていき、漁師を見つけ、招いた。その呼びかけに四人の男たちは応え、イエスに従った。これだけです。マルコによる福音書の著者にとっては、この記述のみで主イエスとの出会い、弟子の召命を伝えるのに十分だったのです。

主イエスの方からあなたを見つけ、近づき、語り掛け、招いて下さっている。主イエスに見つめられ語りかけられたなら、人はもうそれに抗うことなどできない。それほど、主イエスの招く力、神の国へとわたしたちを導こうとする力は強いのだ！これが、マルコによる福音書の著者の主イエスとの出会いの真実だったのです。

今日の福音で「捨てた」と訳されている単語は「赦す」とか「手放す」という意味でも使われます。主イエスに招かれた男たちは、それまで何よりも大切にしていた網や家族を「手放した」のです。それらを物理的に手放したことが強調されてしまうと誤解に陥ります。そうではなくて、これがないと生きていけないと「ぎゅっと握りしめていた」ものを手放した、ということです。手に何かを握りしめたままでは、新しい何かをつかむことはできないからです。今、ここに救い主がおられる。福音がここにある。神の国がここに訪れている。それをいただくには、今握りしめているものを手放して、主イエスによってもたらされる福音をこの手に、このからだに迎えなければならぬのです。

けれども、それは人の力だけではなしえません。なにせ、手放すということにはときに痛みを伴うからです。苦勞してこれまでの人生で獲得してきたことを手放すことは恐怖ですらあります。また、今現在の明日をも見通すことができないわたしたちを取り巻く状況は、手放すことをより難しくしています。神よりも目に見える確かなものを求め、握りしめておきたくなってしまうからです。しかし、そのような今だからこそ、今日の福音はわたしたちにあらためて語りかけています。「主イエスの強力な招く力が、わたしたちの手を開いてくださるから大丈夫だ！あなたが手を開くなら、今握りしめているよりもはるかに良いものが与えられる！」と。